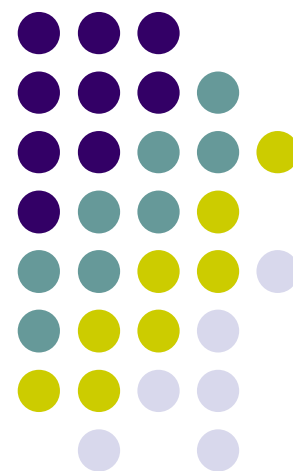


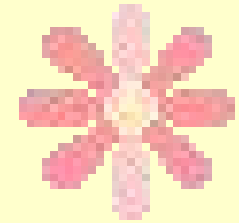
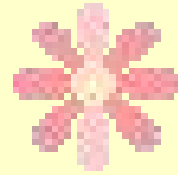
表現活動を通して

希望が丘まつかぜ荘
デイサービスセンター
での実践

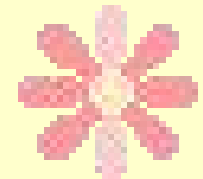
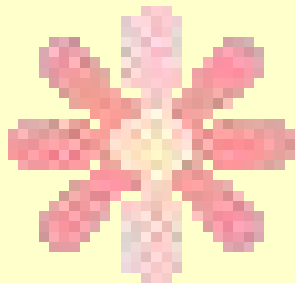


希望が丘まつかぜ荘デイサービスセンター

鈴木敬子



1 はじめに

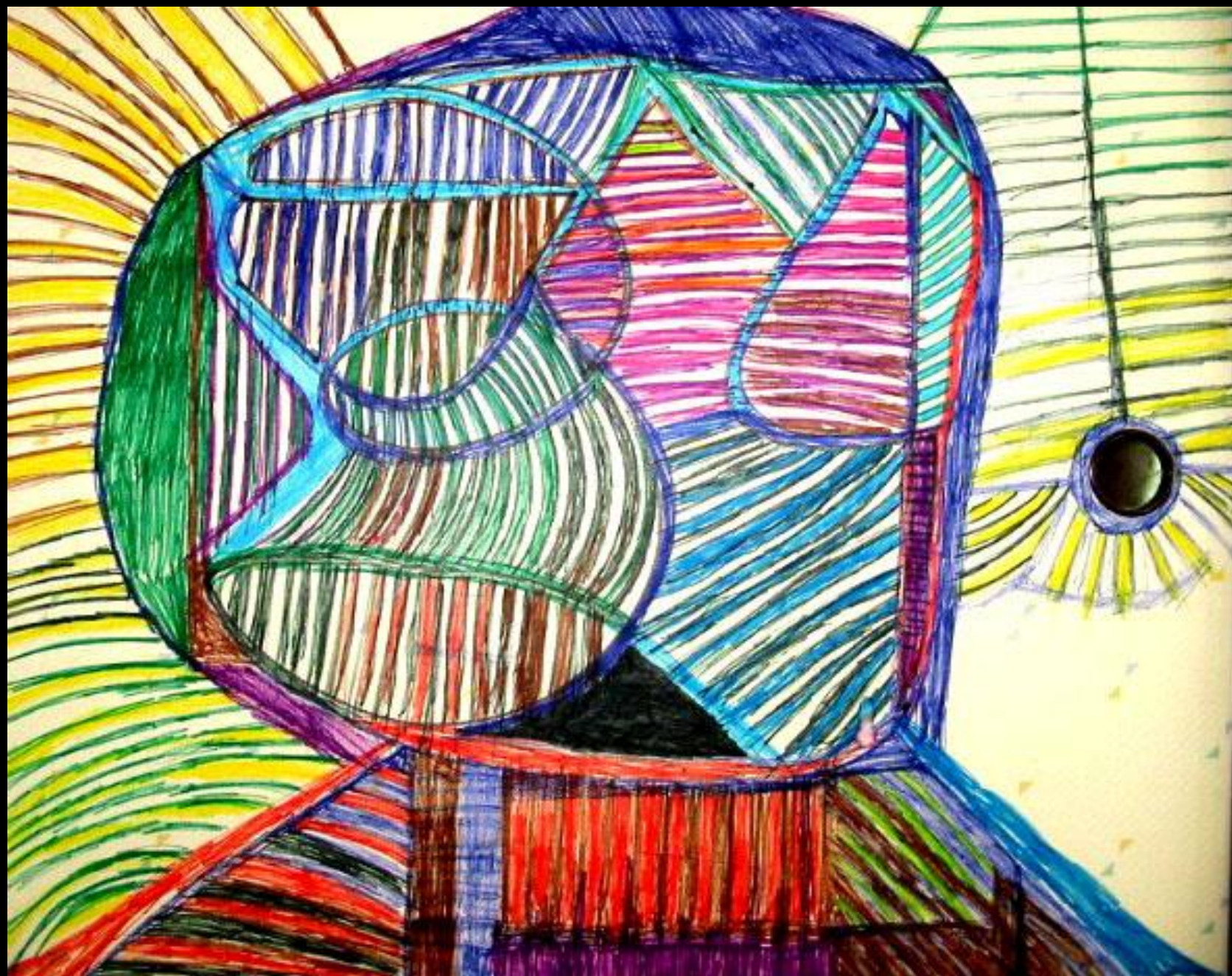








作品：齋藤勝利氏



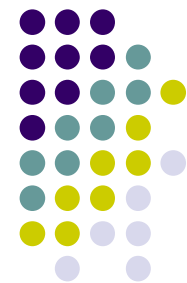
作品：五十嵐勝美氏



作品：秋葉庄平氏

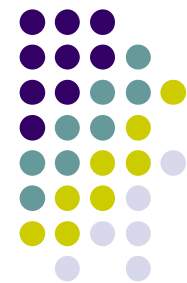
2 表現活動の 実施について





目的

障がい者一人ひとりの個性を大切にし、表現活動を通じて自己実現を図る。



内 容

対 象 者

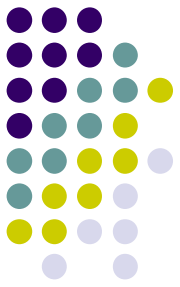
希望が丘まつかぜ荘

デイサービスセンター利用者



活動の手法

- ・様々な画材を使用、自由に表現
(技術や既成概念にとらわれない気持ちよい表現)
- ・自由創作・課題創作などの組み合わせ
- ・個別・月別・年間総合プログラム
- ・実施記録をつける



画材

画用紙(用紙サイズは様々)
スケッチブック、和紙、半紙、
段ボール壁、木材、コンクリート、粘土、
石ころ、葉、色鉛筆、クレヨン、
絵の具、ペン、筆、ローラー、
木の実、草花、…
(身の回りのもの全て)



BGM

musicは低め 気持ち落ち着く雰囲気

活動場所

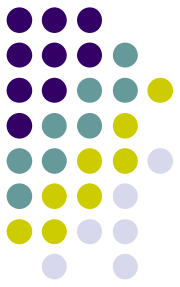
ぽけっと

(デイサービスセンターの活動部屋)

屋外・・・etc

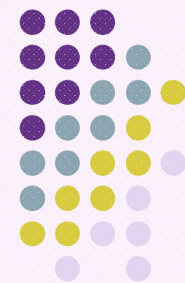
3 实例





①自己コントロールの実態

～開放から再生～



Aさん

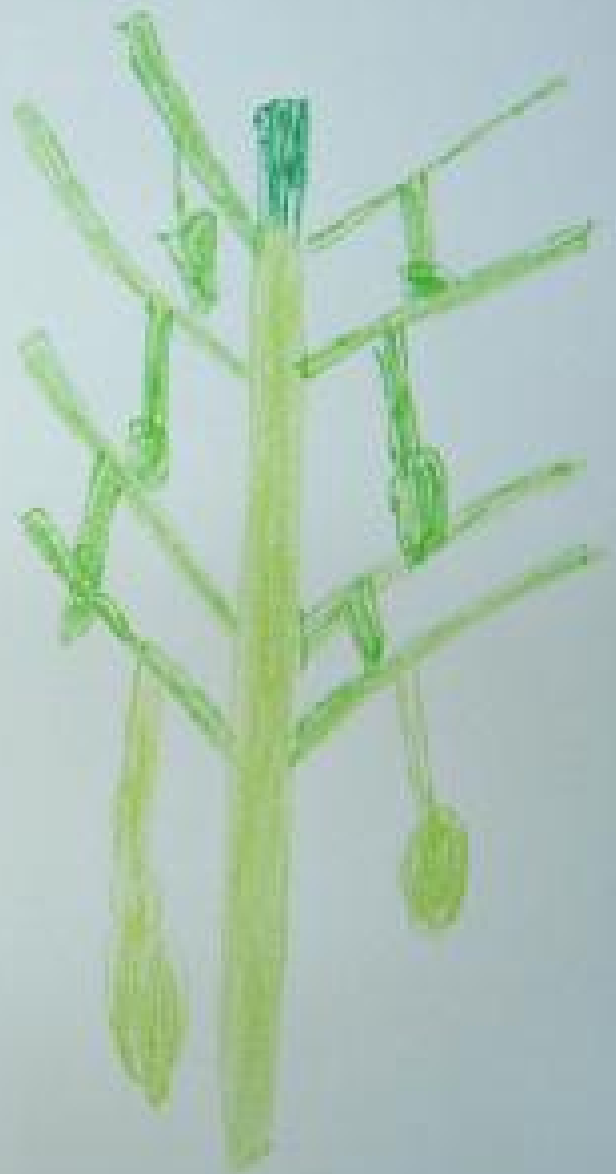
- ・現在58才。女性。高齢の母親と二人暮らし。
- ・自宅が山間部ということもあり、外にでる機会が少なかったと思われる。
- ・デイサービス開所当時からサービスを利用。
- ・無口で感情もあまり見せない。
- ・しかし、表現活動を通してAさんの姿が少しずつ見えてきている。

実例①では、色彩表現を中心に経過をみる。

















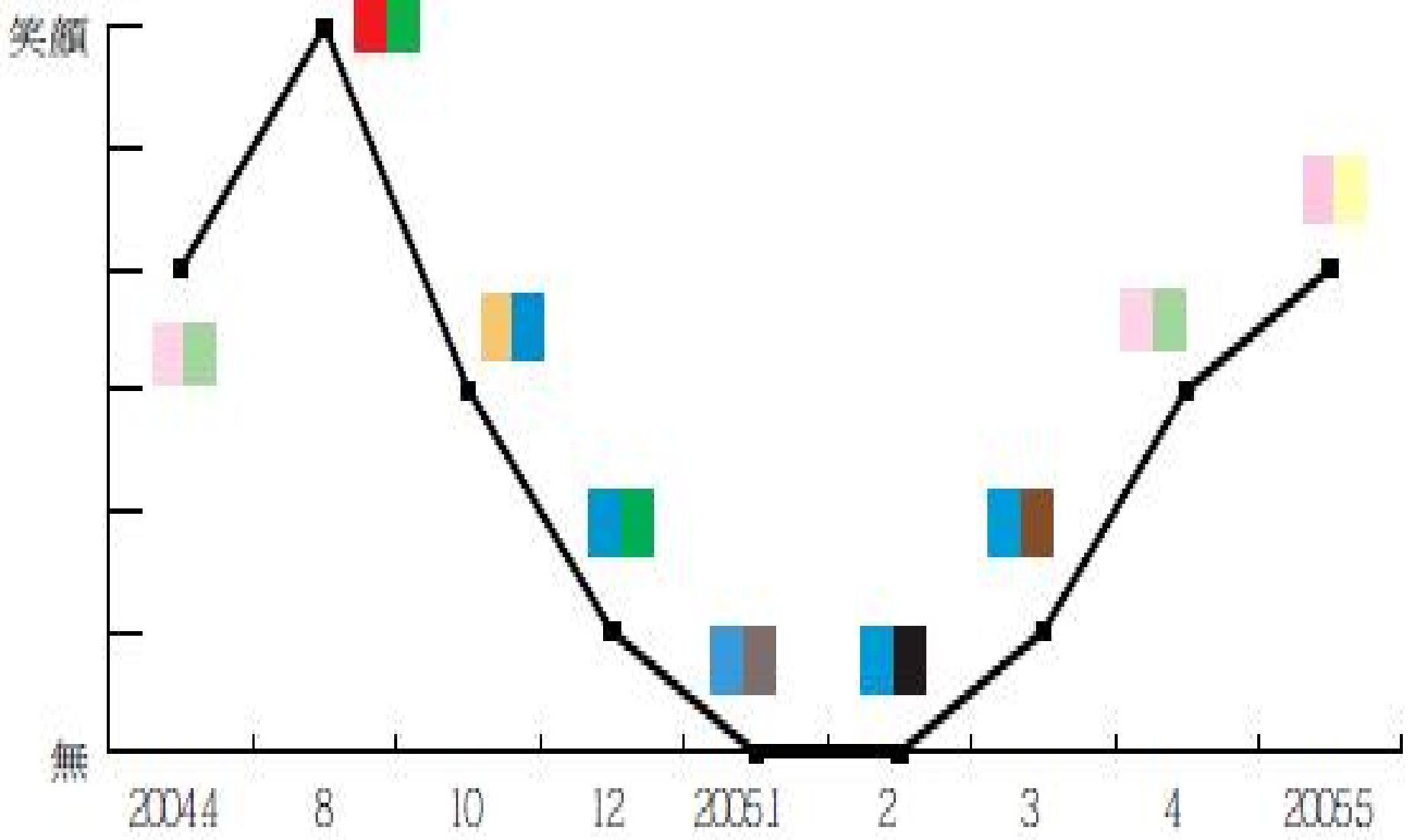




表現、表情の変化



Aさんの色彩傾向

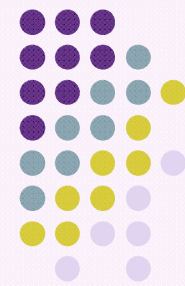




②自己表現から笑顔へ

～ご本人とご家族のコミュニケーション～

Bさん



- ・Bさんは、感情の起伏が激しい。
- ・あまり気分がのらない時は、活動には参加せず、自分の時間を気ままに過ごすことが多い。
- ・しかし、表現活動の時間は、気分がのらなくても参加を希望し、取り組む。
- ・そんなBさんの絵画表現にはいつも驚かされる。普段は、色鉛筆を使い見事な絵画表現をする。

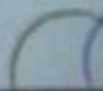
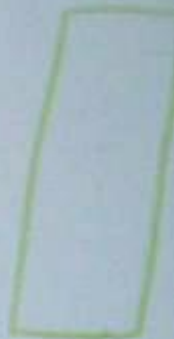
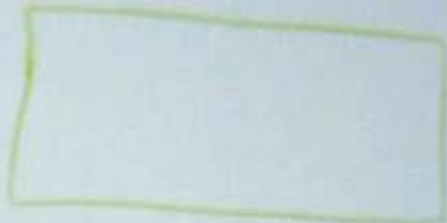
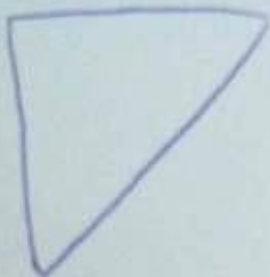
実例②では、絵画に託すBさんのありのままの気持ちを検証する。

はな玉の花



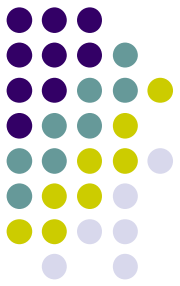








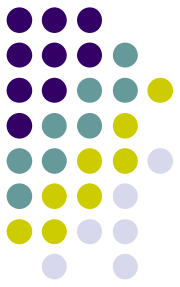




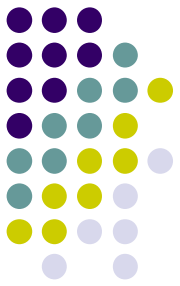
*** 嬉しさの瞬間**



* 家族との コミュニケーション

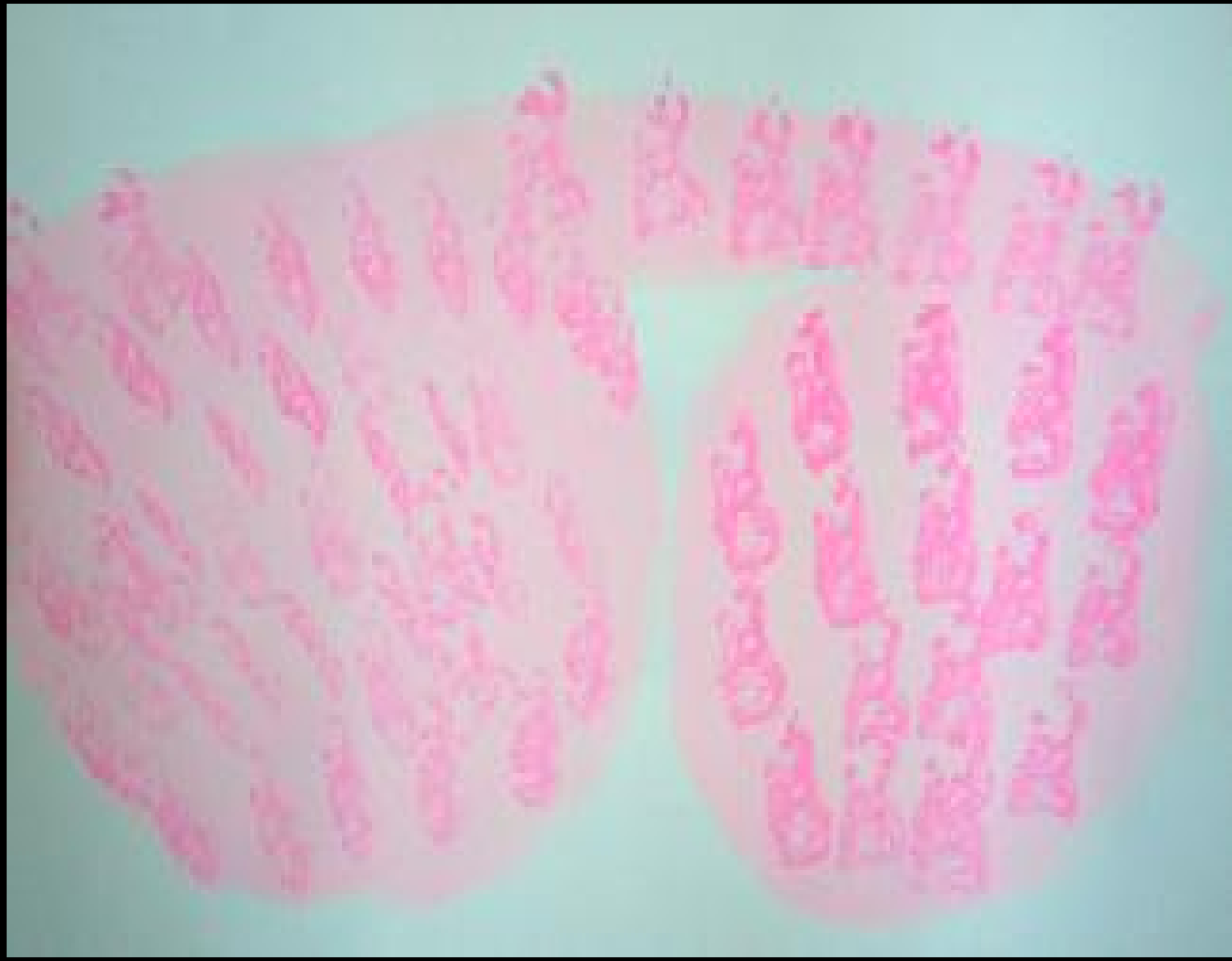


③ 結果



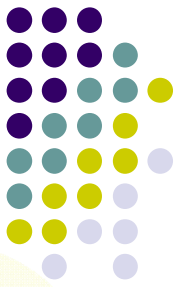
*** 表現できる幸せ**







江戸
人形
林田 ナツ



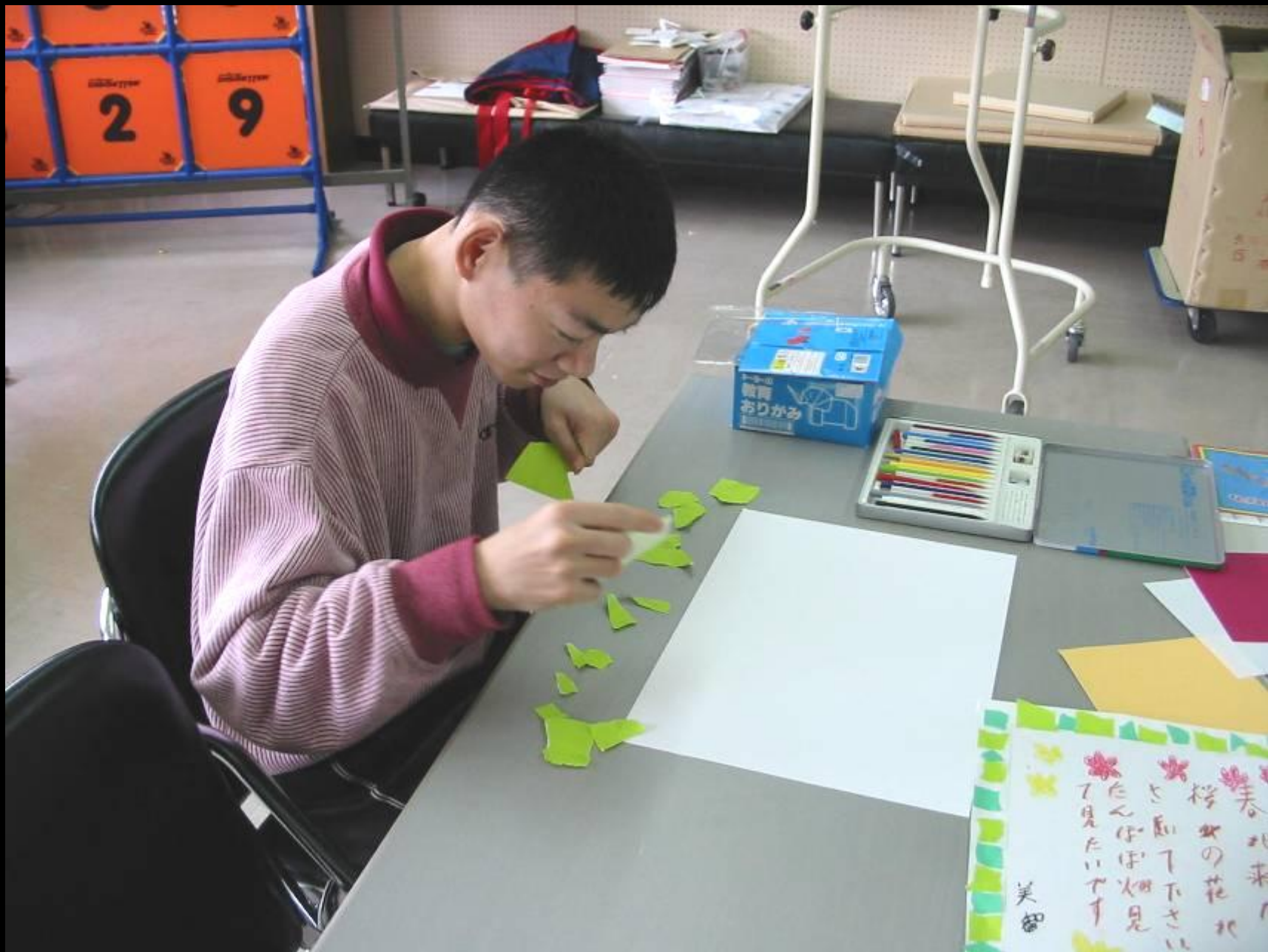
本人が豊かに・・・
他者が幸福に・・・



* 地域で作品を発表 することの意義

～表現からの展開～



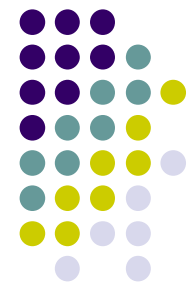


春の来
桜の花
と下さい
と下さい
たんぽぽ
て見たい
美智









展覧会などでの発表



創作意欲 新たな出会い 新たな経験



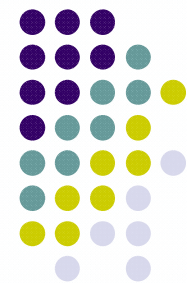
世界観の広がり 社会との接点



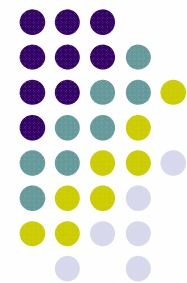
生きる喜びや
豊かなコミュニケーションの手段となる

4 考察



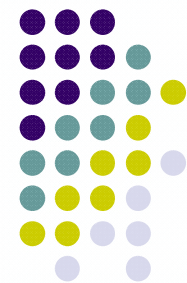


①本人が楽しめる＝
生きがい



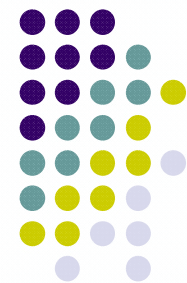
②夢中になれる

=無我夢中

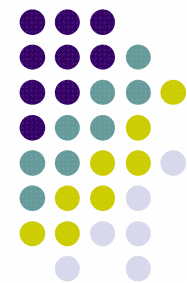


③自分で表現できる

＝画材を選ぶ、色を選ぶ等



④社会参加ができる ＝作品展示等

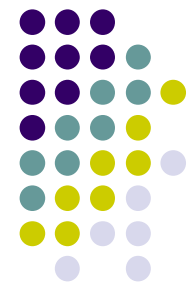


創り・学び・遊び・

喜び・癒す

5 結論





芸術

他人との違いを個性ととらえる

障がい 病 性 年齢などなど

を超えてみな同じ人間

自分自身やお互いのことをよく知るためのコミュニケーションツール



芸術とは、社会の中で重要な
役割を果たしているのでは…

